

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、経済・金融政策の効果から円安と株高が進行するとともに個人消費や雇用情勢が持ち直すなど、緩やかな回復傾向にあります。

超高齢社会の進展に伴い社会構造が変化していく中で、医療費抑制を目的とした制度改革等が進められており、医療界及び介護業界におきましては、一層の効率経営が求められております。

このような環境の下で当社グループは、医療や介護サービスの需要が拡大するものと捉え、安全性を最優先としつつ事業規模の拡大に取り組んでまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の当社グループの業績は、売上高16,901百万円(前年同期比10.2%増)、営業利益918百万円(前年同期比9.9%増)、経常利益872百万円(前年同期比10.5%増)となりました。四半期純利益は496百万円(前年同期比22.2%減)となり、投資有価証券売却益を計上した前期に比べ減益となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

① 調剤薬局事業

調剤薬局事業におきましては、新規に出店した4店舗と事業譲受による2店舗で6店舗の増加となり、第3四半期末における当社グループの調剤薬局店舗数は87店舗となりました。

これら新規店舗の業績が寄与するとともに、既存店においても処方箋単価が上昇して増収となり、売上高は14,947百万円(前年同期比8.3%増)、営業利益1,117百万円(前年同期比9.1%増)となりました。

② ヘルスケア事業

ヘルスケア事業におきましては、介護付有料老人ホーム1施設を新規開業し、施設数は9施設となりました。子会社にて運営する訪問介護事業と合わせ、売上高は1,127百万円(前年同期比31.5%増)となりましたが、新規施設の開業による初期費用の発生により営業利益は61百万円(前年同期比29.1%減)となりました。

③ 医薬品卸事業

医薬品卸事業におきましては、ジェネリック医薬品使用促進策に沿って市場が拡大する中で、積極的な営業活動を展開した結果、売上高773百万円(前年同期比26.7%増)、営業利益68百万円(前年同期比14.3%増)となりました。(内部売上を含む売上高は1,101百万円となり、前年同期比で22.8%増加しました。)

④ 不動産事業

不動産事業におきましては、賃貸不動産からの収入によって、売上高53百万円(前年同期比5.1%減)、営業利益26百万円(前年同期比11.2%減)となりました。

また、投資事業におきまして、株式会社ヘルスケア・キャピタルは投資有価証券売却益22百万円を計上しております。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。